

令和5年度 学校評価結果と考察及び改善の方向性

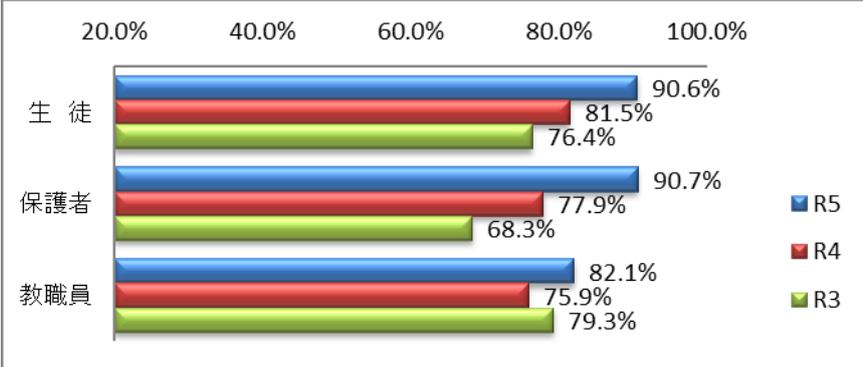
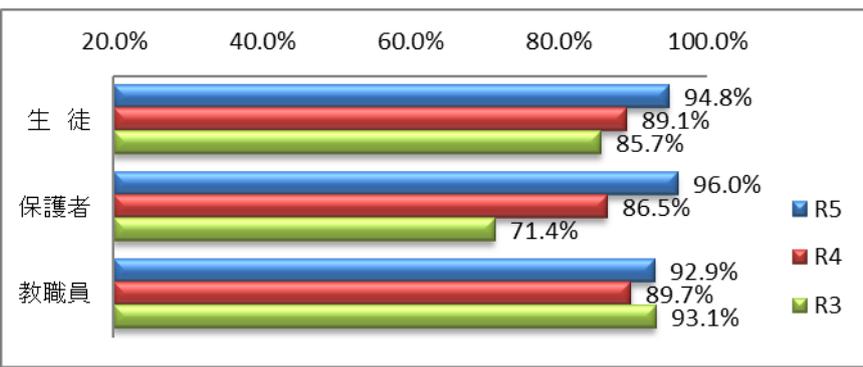
宮城県松山高等学校

	評価項目	アンケートで、 肯定的意見(よく出来ている, 大体できている)の割合 (%)																
1	学校として、スクールポリシーに基づいた教育課程が編成・実施されている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5 (%)</th> <th>R4 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>99.0%</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>97.3%</td> <td>84.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9%</td> <td>82.8%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【アンケート結果の考察】 昨年と比べ、肯定的評価が増加した。生徒・保護者・教職員とも90%を超える非常に高い結果となった。個に適した学びに向け、さまざまな取り組みを行っていることに、評価をいただいたと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】 教育課程については次年度が完成年度のため、来年度の評価と併せて今後検討していきたい。</p>	対象者	R5 (%)	R4 (%)	生徒	99.0%	85.7%	保護者	97.3%	84.6%	教職員	92.9%	82.8%				
対象者	R5 (%)	R4 (%)																
生徒	99.0%	85.7%																
保護者	97.3%	84.6%																
教職員	92.9%	82.8%																
2	生徒にとって、学ぶ意欲を引き出し、学力を身に付けられるような授業が行われている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5 (%)</th> <th>R4 (%)</th> <th>R3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>93.8%</td> <td>88.2%</td> <td>83.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>88.0%</td> <td>83.7%</td> <td>76.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9%</td> <td>75.9%</td> <td>75.9%</td> </tr> </tbody> </table> <p>【アンケート結果の考察】 昨年と比べ、肯定的評価が増加した。生徒・保護者・教職員とも85%を超える非常に高い結果となった。通級やUDLの取り組みによる効果とも考えられる。生徒の授業に対する取り組みも変化しているようである。</p> <p>【次年度に向けて】 通級やUDLの取り組みを継続すると共に、校内研修等によって更なる授業改善を目指していきたい。</p>	対象者	R5 (%)	R4 (%)	R3 (%)	生徒	93.8%	88.2%	83.6%	保護者	88.0%	83.7%	76.2%	教職員	92.9%	75.9%	75.9%
対象者	R5 (%)	R4 (%)	R3 (%)															
生徒	93.8%	88.2%	83.6%															
保護者	88.0%	83.7%	76.2%															
教職員	92.9%	75.9%	75.9%															

<p>3</p>	<p>生徒にとって、挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>90.6%</td> <td>84.9%</td> <td>86.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>86.7%</td> <td>82.7%</td> <td>69.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75.0%</td> <td>82.8%</td> <td>96.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	90.6%	84.9%	86.4%	保護者	86.7%	82.7%	69.8%	教職員	75.0%	82.8%	96.6%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	90.6%	84.9%	86.4%															
保護者	86.7%	82.7%	69.8%															
教職員	75.0%	82.8%	96.6%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>一部の生徒で服装や頭髪に改善がみられず、指導に苦慮する場面があった。そのため、全般的に教員・保護者の評価は下がっている。しかし、生徒の自主性の高まりが見られるため生徒自身の評価は上がっていると考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>基本的な生活習慣の徹底は、学習や進路、学級活動などの教育活動を円滑に推進するために必要であり、様々な角度から生徒にその大切さを理解させる取組を行っていきたい。特に生徒自らが挨拶やルールを守ることの大切さを考え、主体的に取り組む姿勢を引き出す指導が必要である。</p>																		
<p>4</p>	<p>生徒にとって、進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>96.9%</td> <td>91.6%</td> <td>87.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>84.0%</td> <td>86.5%</td> <td>72.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>85.7%</td> <td>79.3%</td> <td>82.8%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	96.9%	91.6%	87.9%	保護者	84.0%	86.5%	72.2%	教職員	85.7%	79.3%	82.8%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	96.9%	91.6%	87.9%															
保護者	84.0%	86.5%	72.2%															
教職員	85.7%	79.3%	82.8%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>平均すると微増とみえる。3年生の企業見学や1・2年生のおおさき産業フェアへの参加、学年「総合的な探究の時間」での学校見学、学級担任と生徒・保護者の信頼関係の構築などが影響しているのではないかと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>各学年と進路指導部の連帯を密にして、情報の共有を強化する。電子アンケートの実施により、生徒の進路希望の変化を早くに察知して、的確に対応する。2・3年生の生徒保護者進路説明会の内容を精選し、相談しながら簡潔にまとめた。</p>																		

<p>5</p>	<p>生徒にとって、教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる体制ができている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>94.8%</td> <td>89.9%</td> <td>82.1%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>89.3%</td> <td>83.7%</td> <td>70.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9%</td> <td>93.1%</td> <td>93.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	94.8%	89.9%	82.1%	保護者	89.3%	83.7%	70.6%	教職員	92.9%	93.1%	93.1%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	94.8%	89.9%	82.1%															
保護者	89.3%	83.7%	70.6%															
教職員	92.9%	93.1%	93.1%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>SCやSSWへの相談件数等は昨年と大きな違いはなかった。教職員の評価に大きな変化はないが、生徒・保護者の評価が向上している。相談体制の充実がうかがえる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>SCやSSWについては、教員側から積極的に生徒や保護者に対して活用を促すことにより向上が図られたのではないかと考えられる。今後も保護者向け一斉メール等を活用するなど広報活動や情報提供を充実させ、生徒・保護者対象のアンケート等を参考により良い体制づくりに取り組んでいきたい。</p>																		
<p>6</p>	<p>学校として、部活動は活発に行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>86.5%</td> <td>69.7%</td> <td>60.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>64.0%</td> <td>62.5%</td> <td>54.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>57.1%</td> <td>37.9%</td> <td>27.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	86.5%	69.7%	60.0%	保護者	64.0%	62.5%	54.8%	教職員	57.1%	37.9%	27.6%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	86.5%	69.7%	60.0%															
保護者	64.0%	62.5%	54.8%															
教職員	57.1%	37.9%	27.6%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>本年度、運動部では人数が少ないながらも地区予選を戦い抜いた。文化部では吹奏楽部がコンクールで昨年よりも上位に入選するなど、継続的な活動が見られた。ただし、各部とも生徒数の減少や生徒自ら自主的な取組が見られない影響もあり、活発な活動が行われている状況とは言えない。特に運動部に関してはその傾向が顕著である。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>ここ数年、生徒数の減少等により活動が難しい状態になってきている。活動状況を把握し、生徒のニーズに即した部活動の在り方を検討していきたい。運動部においては、大会出場にとらわれない形の運営形態も軌道に乗り出している。また、生徒には部活動だけでなく生徒の学校での活動の在り方も検討していきたい。</p>																		

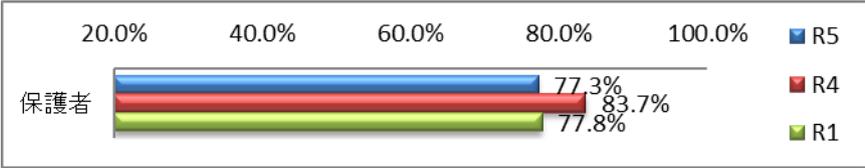
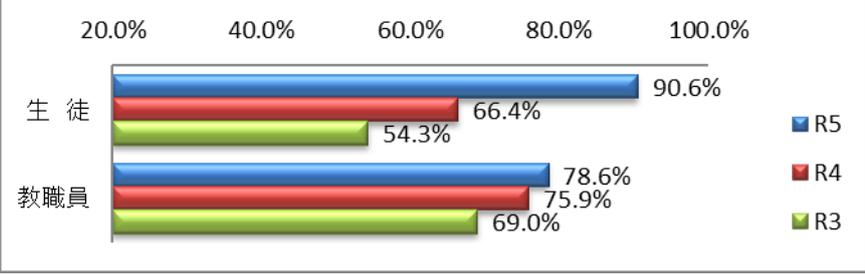
7	学校として、生徒会活動は活発に行われている	<p>A horizontal bar chart with three groups on the y-axis: 生徒 (Students), 保護者 (Parents), and 教職員 (Staff). For each group, there are three bars representing different response categories: R5 (blue), R4 (red), and R3 (green). The x-axis represents percentages from 0% to 100% in 20% increments. The data values are: 生徒 (R5: 95.8%, R4: 82.4%, R3: 71.4%), 保護者 (R5: 93.3%, R4: 79.8%, R3: 61.9%), 教職員 (R5: 82.1%, R4: 65.5%, R3: 72.4%).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>95.8%</td> <td>82.4%</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>93.3%</td> <td>79.8%</td> <td>61.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>82.1%</td> <td>65.5%</td> <td>72.4%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	95.8%	82.4%	71.4%	保護者	93.3%	79.8%	61.9%	教職員	82.1%	65.5%	72.4%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	95.8%	82.4%	71.4%															
保護者	93.3%	79.8%	61.9%															
教職員	82.1%	65.5%	72.4%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>生徒会としての活動については、行動緩和がなされたことにより、数年前と同様な活動が行えたことが生徒・保護者の評価につながったと思われる。しかし教員は生徒会の取組としては物足りなさを感じ、評価が他より低いと思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度は4・5月には生徒会行事が多くあったため積極的に活動できたが、それ以降、生徒自ら積極的な活動が見られなかった。先生方の指導のもと、生徒に主体的に動く場面の設定や活動の方向付けを行う必要がある。次年度は、新執行部のもと、今年度の反省を活かし、年間を通して充実した生徒会活動、委員会活動に取り組んでいきたい。生徒会行事等を見ていると生徒が主体的に活動していくこと、発案から実践まで生徒主体で活動できるような「生徒の力を発揮させる指導」が求められている。</p>																		
8	生徒にとって、有意義な学校行事がある	<p>A horizontal bar chart with three groups on the y-axis: 生徒 (Students), 保護者 (Parents), and 教職員 (Staff). For each group, there are three bars representing different response categories: R5 (blue), R4 (red), and R3 (green). The x-axis represents percentages from 0% to 100% in 20% increments. The data values are: 生徒 (R5: 89.6%, R4: 84.9%, R3: 76.4%), 保護者 (R5: 92.0%, R4: 86.5%, R3: 70.6%), 教職員 (R5: 100.0%, R4: 100.0%, R3: 96.6%).</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>89.6%</td> <td>84.9%</td> <td>76.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>92.0%</td> <td>86.5%</td> <td>70.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>96.6%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	89.6%	84.9%	76.4%	保護者	92.0%	86.5%	70.6%	教職員	100.0%	100.0%	96.6%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	89.6%	84.9%	76.4%															
保護者	92.0%	86.5%	70.6%															
教職員	100.0%	100.0%	96.6%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>昨年に比べ、肯定的評価が増加した。これは本校で行われている学校行事が有意義であるということを示しているといえる。コロナが収束しつつあり、制限も緩和され活動内容をコロナ前の状態に戻し、学校行事等が一般に向けて公開でき、満足感が得られたためだと思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度は、生徒会行事同様、少々制限はあるもののコロナ前の活動にほぼ戻すことができた。また、学校行事に関しては多くの生徒は真剣に取り組む姿勢が見受けられ、協力して動こうとする意識が感じられた。生徒同士のコミュニケーション力の向上を図り、円滑な学校生活を過ごすためにも、本校での学校行事の意義は大変重要と捉えている。次年度はできる限り、通常に近い形での学校行事が実施できるようにしたい。また、開催時期や内容について今後も検討してよりよいものを目指していきたい。</p>																		

<p>9</p>	<p>学校として、地域や伝統などに根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>90.6%</td> <td>81.5%</td> <td>76.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.7%</td> <td>77.9%</td> <td>68.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>82.1%</td> <td>75.9%</td> <td>79.3%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	90.6%	81.5%	76.4%	保護者	90.7%	77.9%	68.3%	教職員	82.1%	75.9%	79.3%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	90.6%	81.5%	76.4%															
保護者	90.7%	77.9%	68.3%															
教職員	82.1%	75.9%	79.3%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>今年度地域の行事が再開され、まつやま邑まつりに参加したり、大崎市食育推進協議会と3年調理コースが連携してクックパットレシピをつくるなど、様々な活動を行うことができた。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>松山小学校との交流授業等、地域と連携できるところは引き続き協力していきたい。</p>																		
<p>10</p>	<p>生徒に対して、災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている</p>	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>94.8%</td> <td>89.1%</td> <td>85.7%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>96.0%</td> <td>86.5%</td> <td>71.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9%</td> <td>89.7%</td> <td>93.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	94.8%	89.1%	85.7%	保護者	96.0%	86.5%	71.4%	教職員	92.9%	89.7%	93.1%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	94.8%	89.1%	85.7%															
保護者	96.0%	86.5%	71.4%															
教職員	92.9%	89.7%	93.1%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>避難訓練は年2回実施しているが、80%を超える生徒が避難経路や避難方法を把握しているという回答しており、生徒が真剣に取り組んでいると考えられる。防災関連会議では高校生になると取り組み姿勢がマンネリ化すると発言も聞かれるが、工夫を凝らして生徒の意識向上に寄与していきたい。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>避難訓練については地域との連携が通学範囲の拡大により困難であるのが実情で保護者の参加など協力を仰ぐのも難しい。そこで、来年度は生徒に告知せずに抜き打ちで避難訓練をするのではなく、日程を決め、保護者にも事前に通達して参観をお願いする形態で実施して、実施内容が適切か否かの判断を仰ぎたいと考えている。</p>																		

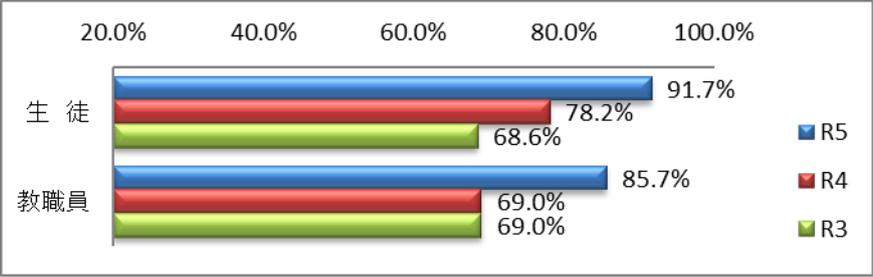
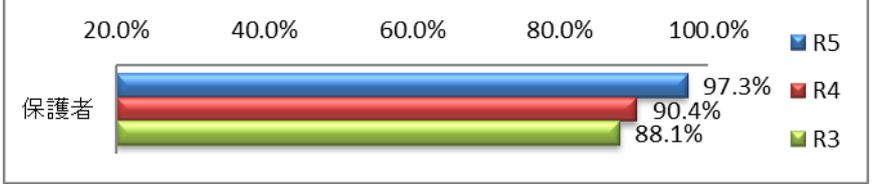
11	保護者に対して、学校だよりなどによって、学校の情報は適切に伝えられている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>93.8%</td> <td>92.4%</td> <td>87.9%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>94.7%</td> <td>82.7%</td> <td>80.2%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.4%</td> <td>96.6%</td> <td>79.3%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	93.8%	92.4%	87.9%	保護者	94.7%	82.7%	80.2%	教職員	96.4%	96.6%	79.3%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	93.8%	92.4%	87.9%															
保護者	94.7%	82.7%	80.2%															
教職員	96.4%	96.6%	79.3%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>非常に高い評価を得ることができ、特に、保護者による評価が昨年度より大きく上昇した。昨年度の反省では「一斉メールやHPの充実」を掲げており、それを受け今年度はきめ細かなメール配信やHPの一新などに取り組んだ。その結果が今年度の評価につながったものと考えられる。適切な情報発信により、教育活動に対する保護者の理解も深まっていたように感じる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>コロナ禍で学校行事や校外活動が制約された昨年度に比べ、今年度は次第に元の活動状況に戻りつつあった。そのような本校の良い取り組みを知ってもらうためにも、引き続き情報発信に努めたい。</p>																		
12	校舎やグラウンドなどの施設や設備は整備されている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>78.1%</td> <td>68.9%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>65.3%</td> <td>62.5%</td> <td>63.5%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>75.0%</td> <td>51.7%</td> <td>55.2%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	78.1%	68.9%	65.0%	保護者	65.3%	62.5%	63.5%	教職員	75.0%	51.7%	55.2%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	78.1%	68.9%	65.0%															
保護者	65.3%	62.5%	63.5%															
教職員	75.0%	51.7%	55.2%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>いずれの結果も昨年度と比較し高い評価となった。令和4年3月の地震による被害の改修が終了し、復旧したことがその要因と考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>施設や設備の管理にあたっては、生徒の安全・安心を最優先とし、定期的な校舎内外の施設等の巡回点検により破損箇所の早期把握に努め、施設等の快適な環境と安全管理を推進する。</p>																		

13	学校として、日頃 からいじめの早期 発見に取り組んで いる	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>85.4%</td> <td>76.5%</td> <td>65.0%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>77.3%</td> <td>70.2%</td> <td>57.9%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>100.0%</td> <td>100.0%</td> <td>89.7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	85.4%	76.5%	65.0%	保護者	77.3%	70.2%	57.9%	教職員	100.0%	100.0%	89.7%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	85.4%	76.5%	65.0%															
保護者	77.3%	70.2%	57.9%															
教職員	100.0%	100.0%	89.7%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>コミュニケーションが上手くいかないことや様々な理由で不安感・不信感を抱いてしまうケースが多く見受けられる。アンケート調査を毎月実施しているため、教職員の評価は高いものの、保護者には夏休みのみアンケートをとっているため評価につながっていない。また、生徒においてはアンケートに本音を記入していない場合がある。これはアンケートに記入しても改善されないという思いがあるためと推察される。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>アンケート調査等も含め、いじめを未然に防ぐための取組や生徒の情報を職員で共有できるシステムを構築する。いじめ防止のポスター掲示や生徒への呼びかけ、良好なコミュニケーションの取り方を学ぶ機会（SST）を増やすなど生徒へのアプローチを増やしていきたい。保護者に対してもいじめを未然に防ぐための取組等の情報発信に取り組みたい。</p>																		
14	生徒にとって、学 校生活は充実して いる	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>81.3%</td> <td>72.3%</td> <td>68.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>84.0%</td> <td>78.8%</td> <td>69.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>89.3%</td> <td>72.4%</td> <td>75.9%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	81.3%	72.3%	68.6%	保護者	84.0%	78.8%	69.8%	教職員	89.3%	72.4%	75.9%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	81.3%	72.3%	68.6%															
保護者	84.0%	78.8%	69.8%															
教職員	89.3%	72.4%	75.9%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>過去2年間はコロナ禍により学校生活が制約を受け、その中でできることを模索した学校生活であった。しかし、今年度は元の状況に戻りつつあり、生徒に有意義な行事や活動を実施することができ、非常に高い評価を得ることができた。また、学校全体としてユニバーサルデザインを意識した学校作りや、ICTを取り入れた授業作りに取り組むことができたことにより、生徒にとって充実した学校生活につながったと考えられる。昨年度の反省に「生徒の自主性の育成」を掲げていたが、さまざまな場面において生徒主体になるよう運営したことも、生徒の自信と充実感につながったと思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度同様に、生徒の自主性を促しながら意欲的に物事に取り組む姿勢を育成するとともに、教職員の研修・実践に取り組んでいきたい。</p>																		

15	学校のウェブサイト（ホームページ）を見ている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>51.0%</td> <td>28.6%</td> <td>31.4%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>57.3%</td> <td>30.8%</td> <td>31.0%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>60.7%</td> <td>58.6%</td> <td>69.0%</td> </tr> </tbody> </table>	グループ	R5	R4	R3	生徒	51.0%	28.6%	31.4%	保護者	57.3%	30.8%	31.0%	教職員	60.7%	58.6%	69.0%
グループ	R5	R4	R3															
生徒	51.0%	28.6%	31.4%															
保護者	57.3%	30.8%	31.0%															
教職員	60.7%	58.6%	69.0%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>今年度、学校ホームページの内容を点検し、現行の内容に見合わないものについて大幅な更新を行った。ブログなども定期的な更新が行われており、そのことが生徒や保護者の肯定的な回答が増加した原因の一つと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>毎年、必要な更新作業を年度当初に行うと共に、ブログなどの記事の更新も積極的に投稿してもらうよう声かけする。</p>																		
16	図書館は利用しやすく、読みたい本や必要な資料がそろっている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>グループ</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>96.9%</td> <td>84.0%</td> <td>76.4%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>96.4%</td> <td>96.6%</td> <td>96.6%</td> </tr> </tbody> </table>	グループ	R5	R4	R3	生徒	96.9%	84.0%	76.4%	教職員	96.4%	96.6%	96.6%				
グループ	R5	R4	R3															
生徒	96.9%	84.0%	76.4%															
教職員	96.4%	96.6%	96.6%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>3年連続で、生徒の評価が上昇する結果となった。学習面においては探究や調べ学習等での利用で、“楽しみ・レクリエーション”の観点からは、リクエストサービスや図書委員の店頭選書等により、生徒のニーズに応えることができた。また、そうした活動を単年度ではなく、年々積み重ねてきたことによりニーズに対応できる蔵書の構築を図ることができたものとする。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>「読みたい本が手に入った。」「調べたらわかった。」という経験の積み重ねが図書館の信頼へとつながるものとする。授業や学校行事等と連携することで、常に蔵書構成の見直しを図り「使える図書館」が作られていく。一方で、蔵書数の少なさから、未所蔵により資料提供できない場面が多いことも事実である。次年度は①教職員や生徒のニーズをより多く把握し資料収集を行うこと。②潜在的な利用者ニーズを見出し蔵書に反映させることを意識しながら、学校図書館運営に注力していきたい。</p>																		

17	家庭で，学校の様子をお子さんと話題にする	 <p>A horizontal bar chart with the x-axis representing percentages from 0.0% to 100.0% in 20.0% increments. The y-axis lists '保護者' (Guardians). There are three bars: a blue bar (R5) at 77.3%, a red bar (R4) at 83.7%, and a green bar (R1) at 77.8%. A legend on the right shows R5 as blue, R4 as red, and R1 as green.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R1</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>77.3%</td> <td>83.7%</td> <td>77.8%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R5	R4	R1	保護者	77.3%	83.7%	77.8%				
Category	R5	R4	R1											
保護者	77.3%	83.7%	77.8%											
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>昨年度と比較すると評価が下がってしまったものの、高い評価はいただけている。学校の様子が家庭で話題になるよう引き続き情報発信に取り組み、学校への理解や良好な連携につなげていきたい。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>進路を考える題材等、生徒と保護者が会話するきっかけになるような話題や、保護者に興味を持っていただけるような情報を積極的に提供し、家庭と学校との強い連携を目指していきたい。</p>														
18	クラスは授業に集中できる雰囲気となっている	 <p>A horizontal bar chart with the x-axis representing percentages from 0.0% to 100.0% in 20.0% increments. The y-axis lists '生徒' (Students) and '教職員' (Staff). For '生徒', there are three bars: blue (R5) at 90.6%, red (R4) at 66.4%, and green (R3) at 54.3%. For '教職員', there are three bars: blue (R5) at 78.6%, red (R4) at 75.9%, and green (R3) at 69.0%. A legend on the right shows R5 as blue, R4 as red, and R3 as green.</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>Category</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>90.6%</td> <td>66.4%</td> <td>54.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>78.6%</td> <td>75.9%</td> <td>69.0%</td> </tr> </tbody> </table>	Category	R5	R4	R3	生徒	90.6%	66.4%	54.3%	教職員	78.6%	75.9%	69.0%
Category	R5	R4	R3											
生徒	90.6%	66.4%	54.3%											
教職員	78.6%	75.9%	69.0%											
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>昨年と比べ、肯定的評価が増加した。生徒は90%を超える非常に高い結果となった。通級やUDLの取り組みによる効果とも考えられる。生徒は以前より落ち着いて授業に取り組むように変化しているようである。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>次年度も今年度同様学びの多様性事業による研修会や通級の授業を通し生徒の個々のニーズに合わせた授業作りができるようにしていきたい。</p>														

<p>19</p>	<p>保護者から学校へ気軽に相談できる雰囲気がある</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Year</th> <th>R5 (%)</th> <th>R4 (%)</th> <th>R3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>88.0%</td> <td>79.8%</td> <td>67.5%</td> </tr> </tbody> </table>	Year	R5 (%)	R4 (%)	R3 (%)	保護者	88.0%	79.8%	67.5%																																				
Year	R5 (%)	R4 (%)	R3 (%)																																											
保護者	88.0%	79.8%	67.5%																																											
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>2年前と比較すると非常に高い評価であった。保護者への相談体制の周知及び相談体制への安心感が起因していると考えられる。また学校全体での多様な生徒への工夫や模索も成果を上げている一因であると考えられる。さらにメールでの発信により学校への理解が増えたことも理由であろう。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>引き続き文書やメールなどにより、学校の情報を保護者に頻繁に伝えることが重要と思われる。また、SCやSSWなどの活用についても積極的に情報提供していきたい。</p>																																														
<p>20</p>	<p>学校行事（球技大会、文化祭等）をとおして、学校への帰属意識が高まっている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>Group</th> <th>Year</th> <th>R5 (%)</th> <th>R4 (%)</th> <th>R3 (%)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">生徒</td> <td>R5</td> <td>90.6%</td> <td>83.2%</td> <td>72.9%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>83.2%</td> <td>72.9%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>72.9%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">保護者</td> <td>R5</td> <td>93.3%</td> <td>87.5%</td> <td>75.4%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>87.5%</td> <td>75.4%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>75.4%</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">教職員</td> <td>R5</td> <td>89.3%</td> <td>79.3%</td> <td>75.9%</td> </tr> <tr> <td>R4</td> <td>79.3%</td> <td>75.9%</td> <td></td> </tr> <tr> <td>R3</td> <td>75.9%</td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	Group	Year	R5 (%)	R4 (%)	R3 (%)	生徒	R5	90.6%	83.2%	72.9%	R4	83.2%	72.9%		R3	72.9%			保護者	R5	93.3%	87.5%	75.4%	R4	87.5%	75.4%		R3	75.4%			教職員	R5	89.3%	79.3%	75.9%	R4	79.3%	75.9%		R3	75.9%		
Group	Year	R5 (%)	R4 (%)	R3 (%)																																										
生徒	R5	90.6%	83.2%	72.9%																																										
	R4	83.2%	72.9%																																											
	R3	72.9%																																												
保護者	R5	93.3%	87.5%	75.4%																																										
	R4	87.5%	75.4%																																											
	R3	75.4%																																												
教職員	R5	89.3%	79.3%	75.9%																																										
	R4	79.3%	75.9%																																											
	R3	75.9%																																												
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>三者ともに高い評価であった。コロナ禍がほぼ終わり、昨年度に比べ行事に対する制限が大幅に緩和されたことが理由と考えられる。コロナ禍前の状況にはまだ完全に戻っているわけではないが、工夫や模索がうまく成果を上げているものと考えられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>帰属意識を高めるために、生徒自身が自主的に行事運営できるような力の育成にさらに取り組んでいきたい。リーダー研修会や放課後活動などを利用し引き続き工夫して行事運営を行っていきたい。</p>																																														

21	委員会活動において、充実した活動ができている	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>91.7%</td> <td>78.2%</td> <td>68.6%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>85.7%</td> <td>69.0%</td> <td>69.0%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	R5	R4	R3	生徒	91.7%	78.2%	68.6%	教職員	85.7%	69.0%	69.0%
対象	R5	R4	R3											
生徒	91.7%	78.2%	68.6%											
教職員	85.7%	69.0%	69.0%											
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>大部分の生徒は与えられた委員会活動の仕事をきちんと行ったため、生徒・教員共に評価が向上した。委員会の精選も行ったため、各自が自分の仕事に集中できる形になったことも理由として挙げられる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>各自の活動の他に校内環境のUD化の取組を行うなど積極的に活動している委員会もあるが、そうでない委員会もある。また、クラスの人数にばらつきもある。そのため、今後も人数が減少する場合にはさらなる委員会の精選が必要になると考えられる。</p>														
22	携帯電話を使った緊急メッセージは役に立っている	 <table border="1"> <thead> <tr> <th>対象</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>保護者</td> <td>97.3%</td> <td>90.4%</td> <td>88.1%</td> </tr> </tbody> </table>	対象	R5	R4	R3	保護者	97.3%	90.4%	88.1%				
対象	R5	R4	R3											
保護者	97.3%	90.4%	88.1%											
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>適切な運用ができており、非常に高い評価をいただいた。悪天候により列車が運休になったため急遽下校時刻を早めた際にも、事前にメッセージ配信していたおかげで生徒を安全に下校させることができた。また、紙媒体の配付物をPDFデータにしてメッセージに添付配信するなどし、昨年度よりメッセージ送信の件数がだいぶ増えた。緊急連絡以外にも保護者に確実に連絡が届くようになり、重要なツールのひとつとなっている。今年度からメッセージシステムがアプリになり、使いやすくなったことも、評価が高くなった要因かと思われる。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>引き続き、緊急連絡のみならずさまざまな連絡に有効活用していきたい。</p>														

23	進路希望に応じて、必要な進路情報の提供は適切に行われている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>95.8%</td> <td>89.9%</td> <td>80.7%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>90.7%</td> <td>72.1%</td> <td>64.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>85.7%</td> <td>82.8%</td> <td>79.3%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	95.8%	89.9%	80.7%	保護者	90.7%	72.1%	64.3%	教職員	85.7%	82.8%	79.3%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	95.8%	89.9%	80.7%															
保護者	90.7%	72.1%	64.3%															
教職員	85.7%	82.8%	79.3%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>年々均等に上昇を続けている。目立つイベントが増えたことの影響があるのかもしれない。進路情報が保護者の目に触れる機会が増えたのではないかな。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>「進路便り」の内容の精選や、学年・進路指導部内の情報共有、一斉メールのより有効な使用に取り組んでいきたい。</p>																		
24	学校の連絡事項を、生徒は保護者へいつも伝えている	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>86.5%</td> <td>78.2%</td> <td>73.6%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>84.0%</td> <td>65.4%</td> <td>69.8%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>67.9%</td> <td>44.8%</td> <td>37.9%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	86.5%	78.2%	73.6%	保護者	84.0%	65.4%	69.8%	教職員	67.9%	44.8%	37.9%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	86.5%	78.2%	73.6%															
保護者	84.0%	65.4%	69.8%															
教職員	67.9%	44.8%	37.9%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>保護者の評価が非常に上昇した。緊急メールの活用について高評価をいただいていることが、この項目に反映されていると考えられる。家庭からの回答が欲しいような連絡については、締切日の前日に再度メッセージを送信するなどし伝えているため、その結果が教職員の評価の上昇に表れている。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>今年度、緊急メールやGoogleアンケート機能の活用、HPの整備に取り組んだことがこれらの結果につながっていることから、次年度もひきつづき積極的に取り組んでいきたい。</p>																		

25	<p>【家政科のみ】家庭科の基本的知識や家庭科の技術の習得ができる指導が行われている</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>対象者</th> <th>R5</th> <th>R4</th> <th>R3</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>生徒</td> <td>92.9%</td> <td>95.8%</td> <td>90.5%</td> </tr> <tr> <td>保護者</td> <td>91.5%</td> <td>90.0%</td> <td>88.3%</td> </tr> <tr> <td>教職員</td> <td>92.9%</td> <td>89.7%</td> <td>89.7%</td> </tr> </tbody> </table>	対象者	R5	R4	R3	生徒	92.9%	95.8%	90.5%	保護者	91.5%	90.0%	88.3%	教職員	92.9%	89.7%	89.7%
対象者	R5	R4	R3															
生徒	92.9%	95.8%	90.5%															
保護者	91.5%	90.0%	88.3%															
教職員	92.9%	89.7%	89.7%															
<p>【アンケート結果の考察】</p> <p>いずれも高い評価であるが、生徒の評価が下がっている要因として、検定受検が考えられる。発表会など作品や成果を発表する機会があること、技術検定資格取得等を通して生徒達は技術を習得している事が実感できる反面、高度な内容のため合格に至らない生徒達もいることが課題である。</p> <p>【次年度に向けて】</p> <p>発表会・技術検定受検等、今後も発表の機会を大切にしながら、上級資格に挑戦するように指導していきたい。また再受験を行う際の指導を丁寧に行って行きたい。</p>																		